

第57回

姉妹都市親善 英語スピーチコンテスト



中学生の部1位
高橋 あおいさん

10月18日(日)、今年も国際言語としての英語のコミュニケーション能力を高め、国際人としての資質の向上を図ることを目的に英語スピーチコンテストが開催されました。今年はコロナ禍での開催となり、感染予防策をとった上で、個別のスピーチコンテストとなりました。国際人として今後の活躍を期待しています。受賞されたみなさま、おめでとうございます。



一般の部1位
堀内 千種さん

審査員コメント

新型コロナウイルスの影響で慌ただしい中、スピーチを準備し、コンテストに参加したことはとても素晴らしいことです。また、今年は特に内容の濃いスピーチが多く、時間をかけて準備したことがよく分かりました。自分の意見を伝えるために、程よいバランスを見つけてもっとジェスチャーを使うと、さらにスピーチが効果的なものになると思います。

審査員長 Mr. James D. Molloy (民間英会話講師)
審査員 Mr. Lloyd Wakefield (民間英会話講師)
審査員 Mrs. Adrienne Verla Uchida (大学助教)

写真8右
写真8左
写真8中央

受賞者

中学生の部

順位	氏名	学校	タイトル
1位	高橋あおい	三島市立南	The best zoo in the world
2位	山本 幸佳	日大三島	Lost in translation
3位	良本 彩香	三島市立北	What kind of leader is a good leader for you?



高校生・大学生・一般の部

順位	氏名	学校/所属	タイトル
1位	堀内 千種	国際基督教大学	Developing an Ethical Appreciation of Our Food
2位	植竹 碧	日大三島高	Story of "A girl who having special characteristics"
3位	鈴木 琴巳	三島長陵高	Don't Be Like Me

宇山杯

対象者なし

佐野小で出前講座「世界の文化を知ろう」 令和2年9月28日



三島市立佐野小学校の6年生2クラスに「世界の文化を知ろう」というタイトルで出前講座が行われました。これは三島市国際交流協会が、異文化理解と多文化共生についての理解を市内の小中学生に深めてもらうために実施しているものです。今回はペルー出身の天座原ケイラさんとインド出身の石井シュクリシュナさんが講師として招かれ、小学生にもわかりやすく、自国の紹介をしました。



ケイラさんはあでやかな刺繍の民族衣装を着て、出身地区のペルーの高地に住む人々の暮らしを紹介し、人々の生活に欠かせない動物、アルパカの大きな人形を子供たちに順番に触らせました。コロナの流行で危ぶまれていた修学旅行がこの秋実施されることになり、6年生は2日目に訪れる志摩スペイン村で使おうと、スペイン語のあいさつを学んで嬉しそうでした。

インドの民族衣装のサリーを着て現れたシュクリシュナさんは、ベンガル語の「あいうえお」に当たる文字を黒板に書き、わかりやすい法則を教えると、子供たちはすぐに覚えてしまいました。また、インドは、実はカレーだけじゃない、暑いだけじゃない、もっと奥が深いということをいろいろな例で教わりました。最後に民族衣装サリーの着方の実演を行い、持参した8mの布をモデルになった職員の方に巻いていくと、見事に民族衣装サリーが出来上がっていき、その様子に子供たちは目を^{みは}り拍手をしました。出前講座で今までおぼろげだったペルーとインドのことについて、より多くのことを知り、より理解を深めることができたようです。



外国人住民向け自転車マナー講座

11月1日(日)三島商工会議所TMOホールにおいて、外国人住民向けの自転車マナー講座が開催されました。これは、異なる文化的な背景を持つ外国人住民の皆さんが、母国とは違う交通ルールの中で安全・安心に暮らすことができるようサポートする講座で、外国人市民からも開催を希望する声があったため、三島市国際交流室が多文化共生事業のひとつとして企画・実施したものです。このような講座で外国人を対象としたものは、三島市では初めての実施です。



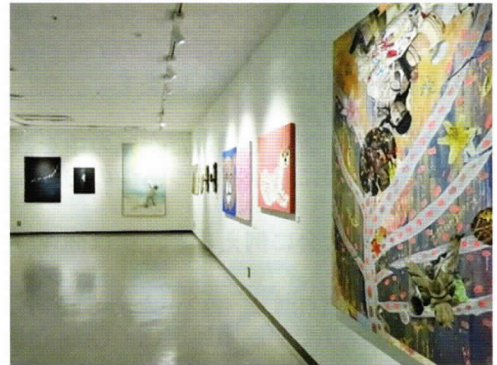
交通安全協会三島地区支部交通安全指導員から、やさしいにほんごで書かれたテキストやスライドを見ながら基本的なルールやマナーを学びました。座学の後には、自転車のシミュレーターや反射神経の測定の体験をし、また、講座修了後、外国人住民同士のつながりを作る機会として、参加者交流会も行われました。中国、ベトナム、ペルー、インドネシア、スペインの5カ国16人が参加し、皆さん、「勉強になった」「楽しかった」など感想を述べていました。

三島・パサディナ姉妹都市交流美術展

10月1日(木)～8日(木)

MISHIMA・PASADENA SISTER CITY ART EXHIBITION

『Art Interchange 2020アートでつなぐ三島とパサディナ!』が10月1日(木)～8日(木)三島市民文化会館ギャラリーにて開催されました。三島市と姉妹都市米国パサディナ



市との60年以上続く姉妹都市交流に文化芸術の視点を加え、国際交流の次なる展開を目指した展示でしたが、新型コロナウイルスの影響により、三島の作家の作品が中心の展示となってしまいました。パサディナの作家も作品を携えての来島を楽しみにしていました。しかし、両市の作家の想いは空のように繋がっているようです。今回は子供達を対象にワークショップも開催され、作家と一緒に朝・昼・夕方・夜の三島の風景を20mの大作に描き上げました。

伊藤 秀海 写真展 Just Like Sisters MISHIMA &

10月8日(木)～13日(火)

『三島とニュープリマス。それはまるで本当の姉妹のような、二つの街。』写真家の伊藤^{しゅう}秀海さんの写真展が10月8日(木)～13日(火)に本町「V i a 7 0 1」にて開催されました。伊藤さんは5年間ニュージーランドに在住し、長く滞在したのがニュープリマスだったそうです。三島とニュープリマスは来年2021年で姉妹都市交流30周年を迎えます。今回のテーマは三島を中心とした静岡県東部とニュープリマスを中心としたタラナキ地方の2つの都市を視覚的に比較することで似通った点やそれぞれの文化と歴史の違いを表現しています。伊藤さんは宮城県仙台市の出身ですが、三島やニュープリマスに滞在して、人々の暖かさや、自然や街の美しさに魅了されたそうです。「国際交流なんて堅い言葉は無しに、三島の姉妹をただ知って欲しい!」そんな思いで写真展を開催したそうです。今回は期間中、味覚でニュージーランドを味わって貰えるように市内飲食店とのコラボ企画も行われました。

NEW
PLYMOUTH



伊藤 秀海さん

James Molloy - MIRA Newsletter #26

JIM のみしまものがたり②⑥

全ての葉が花になる

秋は、私が一番好きな季節です。青々とした夏の葉が、華やかな琥珀色、赤褐色、あずき色、茜色に紅葉するとき。フランスの作家であり哲学者のアルベール・カミュは、秋のことを「すべての葉が花になるとき、秋はもう一つの春である」と表現しています。

大地と空を包む、新鮮で澄んだ空気の中を散歩するだけで、自然が生み出した毎年恒例のファッションショー気分になれる秋。栗に新米、あつあつのおでんに程よく焼けたサンマが美味しい季節です。

もし1年を花火大会に例えると、秋は間違いなく1年を飾るフィナーレでしょう。

鑑賞するもの、賞味するものがたくさんある秋ですが、私にとって一番旬を感じさせるものは、木犀の優雅でうっとりする香りです。木犀 (the Osmanthus fragrans) には、英語でsweet Osmanthus、sweet olive、tea olive、fragrant oliveなどの名前がついていますが、日本には金木犀 (gold Osmanthus) と銀木犀 (silver Osmanthus) があるんですね。

アジア原産で、ヒマラヤ山脈から日本、南はカンボジアやタイまで分布し、何千年も民間療法に使用されてきた木犀は、今や世界中の庭を飾っています。その花はお茶、ジャム、スープやお酒、エッセンシャルオイルなどに用いられ、香水に加える高価な原料として大変珍重されてきました。

木犀の香りをかぐと、日本に来てまだ間もなかった頃の思い出が次々と浮かんできます。蒸し暑い夏にさよならした10月のさわやかな空気は、はかなくもかぐわしい香りとあいまって、もみじおろしやポン酢とともにいただいた、生まれて初めての鍋パーティーを思い出させてくれます。

この街を漂う金木犀の香りがオフィスの開け放った窓から入ってくると、『赤毛のアン』の著者ルーシー・モード・モンゴメリの「10月がある世界に生きていることをとても嬉しく思う」という言葉が頭に浮かぶのでした。

皆さんは秋に何を思いますか？

*この記事は10月に書かれたものです。



LINE 公式アカウントはじめました

発信する内容 イベント情報、語学講座等の募集案内、その他協会からのお知らせ 等

利用方法 「友だち追加」をして情報収集ツールとしてご活用ください。

① ご利用のスマートフォンにコミュニケーションアプリ「LINE」がインストールされていることをご確認ください。インストールされていない場合は、アプリをインストールしてください。LINEの利用にあたり、個人情報の管理には十分ご注意ください。

② 「三島市国際交流協会LINE公式アカウント」を友だち追加してください。
LINEの画面▶「ホーム」▶「友だち追加」▶「QRコード」で、左のQRコードを読み取ってください。

ご利用にあたっては、右のQRコードから運用ポリシーをご覧ください、同意の上友だち追加してください。



▲友だち追加

アカウント管理・問い合わせ 三島市国際交流協会

▲運用ポリシー

麦畑 (編集後記)

- ★前へ前へ。一歩ずつ。(山)
- ★LINE公式アカウント、友だち追加してください。(S)
- ★外国の友が来られない。MIRAの活動も…。フェア頑張ろう。(螢)
- ★初の女性副大統領、ワクワクしちゃう！(青)
- ★暑さ寒さも彼岸まで、とはいかないコロナウイルス いつ迄続くやら(明)
- ★Russet, Gamboge and Crimson: the colors of Izu in autumn (J)
- ★細くとも「継続は力なり」でつなぐ国際交流(桜)
- ★コロナ禍でもやると決めれば知恵が出る、やらぬと決めれば愚痴が出る(古)
- ★不幸中の幸いかな、コロナ禍もネットで交流(魚)

申込み・問合せ

- ★ 三島市国際交流協会 (MIRA) 事務局
TEL 976-1020 FAX 976-1021
- ★ 三島市国際交流室
TEL 983-2645
三島市中央町5-5三島市役所中央町別館



▲ホームページ